

3 . 新庁舎建設の基本理念・基本方針

3 - 1 . 新庁舎建設の基本理念・基本方針

基本理念・基本方針の作成にあたっては、基本構想、天草市本庁舎建設検討委員会からの提言や市議会庁舎建設に関する特別委員会の意見等を踏まえて、市の方針として以下のとおり設定した。

基本理念

「日本の宝島“天草”の創造」を構築する拠点となる庁舎

- (1) 住民自治の拠点となる、親しまれる庁舎
- (2) あらゆる人にやさしく、ユニバーサルな庁舎
- (3) 防災拠点にふさわしい、安全・安心な庁舎
- (4) 機能性・効率性を重視した庁舎
- (5) 環境にやさしく、周辺景観と調和した庁舎

基本方針

(1) 住民自治の拠点となる、親しまれる庁舎

市民が気軽に利用でき、市民に開かれた庁舎を目指します。

市民が市政に関する情報を得られ、議会・行政も政策立案のため情報を共有できる総合情報機能を強化し、市民、議会・行政が交流・連携し、協働を円滑にできる庁舎とします。

NPOやボランティア団体なども気軽に利用でき、住民自治の拠点としての機能を併せ持つ庁舎を目指します。

(2) あらゆる人にやさしく、ユニバーサルな庁舎

年齢や障がいの有無に関わらず、あらゆる人にとって使いやすく、わかりやすいユニバーサルデザインを基本とします。

周辺道路や路線バスなどの公共機関の状況、必要台数を確保した駐車場の整備などにより、来庁者の利便性の向上を図ります。

市民サービスの向上を重視した機能の充実を目指します。

(3) 防災拠点にふさわしい、安全・安心な庁舎

災害時の防災拠点にふさわしい、災害対策本部の機能や避難場所としての機能も備えた安全性、耐震性の高い庁舎とします。

情報管理など高いセキュリティ機能を備え、市民の情報財産を守り、外部からの進入防止などあらゆる対策を備えた安全・安心な庁舎とします。

(4) 機能性・効率性を重視した庁舎

機能性、効率性を重視した庁舎とし、建設に要する費用の削減に努めます。

計画策定から建設までの過程において、建設費用や将来市財政に与える影響について詳細な検討を行い、市民の理解を得ながら整備を進めます。

施設の長寿命化、維持管理の効率性、スペースの汎用性、将来の施設改修・設備更新への対応を容易にするなど、ライフサイクルコストも考慮した長期的に経済効率の高い庁舎を目指します。

(5) 環境にやさしく、周辺景観と調和した庁舎

太陽光などを取り入れ、省資源、省エネルギー対策に配慮した庁舎とします。

太陽光発電システムなどの自然エネルギーの導入を検討し、環境負荷の低減に配慮します。

周辺環境や天草の自然と調和した天草のシンボルとなる将来の都市づくりにも十分配慮した庁舎とします。

天草の特性を活かした地場産材の活用を検討します。

3-2 . 庁舎機能の配置方式の考え方

庁舎機能の配置方式としては、「本庁方式」、「分庁方式」、「総合支所方式」等がある。

天草市においては、合併協定の中で「本庁舎の取扱い方針」を示しており、『当面の取扱いとして、「本庁方式」とし、本渡市役所のスペースの関係上、本渡市内の公共施設等の分散配置を検討する。』となっている。

したがって、配置方式については、天草市本庁舎建設検討委員会の提言や市議会庁舎建設に関する特別委員会の意見等を踏まえ、市としては、市民の利便性や行政運営の効率化及び経済性等を考慮し「本庁方式」のもと、本館と別館等に分散している部署を含めたところで新庁舎を建設する方針である。

主な理由については、次のとおり。

【理由】

- 1 利用者（市民）の利便性を考えると、移動する手間や分散していて分かりにくい状態を解消するには、本館と別館を合わせた庁舎がのぞましい。
- 2 窓口のワンストップ化を進めていく中で、別館と行き来している今の状態を考えた場合、ワンストップ化は分庁方式では困難である。
- 3 大規模な災害が発生した際、防災機能が一同に集結し、指揮命令系統が一本化できるため、迅速な初動体制がとれる。
- 4 庁舎維持管理費等の削減につながる。
- 5 分庁方式を採用した場合、庁舎間の移動ロス（協議、調整、決裁等）、公用車が余分に必要などの経費がかかる。